◎朝日新聞（大阪）　２００９年１１月２４日　夕刊◇１０面

阪大・理研などのグループ
世界最小直径Ｘ線ビーム

直径７㌨メートル（100万分の７㍉）という世界最小のＸ線ビームをつくることに、大阪大と理化学研究所などの研究グループが成功した。このＸ線を顕微鏡に使えば、細胞の中をのぞくレントゲン写真の撮影が可能になる。ネイチャー・フィジックス電子版に掲載された。

大阪大大学院工学研究科の山内和人教授らは、Ｘ線ビームを集める特殊な鏡を開発するなどして、直径７㌨メートルまで絞り込むことに成功した。これまで最小のＸ線ビームは直径15㌨メートル。化学物質が細胞でどう作用するかなどの解明に役立つという。（石橋達平）